



宇都宮市立錦小学校 学校だより

にしきの子

第6号 令和6年10月11日 発行者 校長 大森信二

学校教育目標（合言葉）

- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

1 学期終業式（表彰）

名 称		組	氏 名
2024年度ピティナ・ピアノ コンペティション	東日本栃木地区本選入選	2-2	倉山 えみり
	東日本茨城地区本選入選		
第47回栃木県学生音楽コンクール	東日本栃木地区本選入選	6-2	吉澤 結
	金賞	4-1	佐々木 琴音
	銀賞	6-1	稲熊 安彩
	銀賞	5-2	小牧 赳夫
宇都宮市小学生水泳競技大会	100m個人メドレー1位 50m自由形1位 50mバタフライ1位	3-1	福田 華子
第32回関東ジュニア 新体操大会栃木県予選会	準優勝	6-1	稲葉 愛奈
文部科学大臣杯第66回小学生 中学生全国空手道選手権大会	団体戦 準優勝 宇都宮支部	6-1	五十嵐 羽菜

10月11日（金）、第1学期の終業式を実施しました。当日、表彰された児童は以下のとおりです。

名 称	学年	氏 名
宮っ子心の表彰	6年	春田 斗真
	6年	土屋 逞
	5年	佐藤 美日菜
	5年	植木 ひまり
	4年	岩崎 湊太郎
	4年	木村 紘周
	3年	星 英美里
	3年	横塚 春希
	2年	稲熊 完紀
	2年	海老原 瑛将
	1年	葛馬 未莉
	1年	藤井 玲凪

錦小PTAレクリエーション

9月29日（日）、体育委員会主催のPTAレクリエーションが、5年ぶりに体育館で実施されました。内容は、学年対抗ソフトバレーボール大会です。当日は、東小学校バレー部の児童14名が審判として協力してくれました。珍プレー・好プレーの連続で、楽しい時間を皆さんで共有することができました。参加者の皆さん、ありがとうございました。



地域学校園小中合同あいさつ運動



10月2日（水）～4日（金）の3日間、陽北中学校の生徒の皆さんと本校児童と一緒にあいさつ運動を行いました。児童は、久しぶりに再会した先輩の姿に多少驚きながらも、元気にあいさつを交わしていました。最後は、代表児童が感想を述べ、全員で振り返りを行いました。

3年遠足（大田原市方面）

10月8日（火）、3年生は遠足で、那珂川の畔にあり、県水産試験場に併設された淡水魚水族館がある、ながわ水遊園に行きました。当日は朝から雨が降っていましたが、水族館を見学したり〇×クイズやキーホルダーを作ったりと、館内で楽しく過ごすことができました。



4年遠足（益子町方面）

4年生は、遠足で益子焼の手ひねりを体験しました。

訪れたのは、陶器のショップや食堂があり、陶芸体験教室ができる長谷川陶苑さんです。児童は、粘土の固まりを丸や四角い形にし、自分好みのお皿やカップを作りました。ショップには、和の雰囲気漂う美しい陶器がたくさん並んでおり、児童は益子焼に親しむことができました。



スマホ・ケータイ安全教室



お知らせ

北校舎1階西側の教室を、「PTA室」としました。PTA役員を始め、保護者やボランティア、地域の皆様にもご利用いただけます。学校にお越しの際は、お気軽にご利用ください。

5・6年生を対象に、スマホ・ケータイ安全教室を実施しました。児童は、自分がネットに夢中になっている現状を自覚することができ、また、親や教師、周りの大人が知らない使い方をしていることも明らかになりました。スマホ依存による健康被害や学習への悪影響、人間関係のトラブル、ネットを介した詐欺や犯罪などを改めて確認することもできました。保護者の皆様には、フィルタリングの設定や家庭でのルールづくりはもちろですが、引き続き、お子様と一緒に過ごす時間を大切にし、見守り、見届けていただきますようお願いいたします。

勝ちに不思議の勝ちあり。負けに不思議の負けなし。

「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」という言葉があります。プロ野球で南海、ヤクルト、阪神、楽天で監督をした野村克也監督の名言と言われています。野村氏は、京都府の生まれで、3歳の時に父が戦争で亡くなり、母の手一つで育てられました。昭和29年に高校からテスト生としてプロ野球の南海に入団し、3年目には1軍のキャプテンになり4年目から4番バッターとなりました。昭和55年に引退するまで、通算2901安打、657本塁打、1988打点、MVP5回、三冠王1回、首位打者1回、本塁打王9回、打点王7回と、大記録を残した超一流の選手でした。昭和45年からは8年間南海の監督を兼任し、昭和48年にパ・リーグ優勝を果たしました。平成2年にヤクルトの監督になり、3度の日本一を含む4度のセ・リーグ優勝に輝くなど、監督としても超一流といえます。I D野球を説くなど、非常に理論家でもありました。

野村氏の名言「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」は、「勝った試合には、実力以外のツキや流れ相手の自滅など、説明のつかない要因が重なった不思議な勝ち方がある。しかし、負けた試合には負けるだけの理由が必ずある。間違っただけか偶然負けたということは絶対にない」という意味です。またこの言葉は、18世紀に現在の長崎県の平戸藩主であった松浦静山(1760～1841)の言葉とも言われています。

私たちは日々何かと戦っています。極端に言えば、人生は勝負の連続です。勝負ごとに勝つためには、負けない戦略をたて、負けない努力をし、そこに時の運が加わった時、成功を手に入れることができます。野村氏がこのような大選手となり名監督となった原動力は、この戦略と努力、そしてハングリー精神であったと言われています。勝ち負けの結果がすべてではありませんが、自分の目標をもち、その実現に向かってしっかり対策を練り、不満や愚痴を言わないで地道に努力を重ねていけば、きっと道は開けると信じ前に進んでいきたいものです。

～ 怠ける者は不満を言うが、努力するものは目標を語る ～



本校のHPは日々更新しています。
最新情報はHPでご確認ください。



にっこりえがお
しっかりまなぶ
きたえるからだ

